２０２４年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園

ミッション・ステートメント（使命宣言）:「私たちは、生徒の**自尊感情**を高める実践を追求します。」

バリュー・ステートメント（価値宣言）:「私たちは、生徒・保護者・職員・学校関係者との**コミュニケーション**を大切にします。」

１　スクール・ミッション（本学園の存在意義・社会的役割を踏まえどのような学校の実現を目指すかを示す「目指す学校像」）

１　さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも頑張って生きていこうとする子どもたちを受け入れ、仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校（No student is left behind.）
２　生徒が「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的・専門的な技能」を身に付け、入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて「自立と社会参加」を果たす学校（Independence and social participation through overachievement）
３　生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校（We love “Tokufu.”）

２　スクール・ポリシー

（１）グラデュエ―ション・ポリシー（卒業までにどのような資質・能力を身に付けた生徒の育成を目指すかを示す「目指す生徒像」）

１　**自己成長感**（「できなかったことや諦めていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感）、**自己効力感**（「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感）、**自己有用感**（「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感）を持った**自尊感情**の高い生徒（Self-esteem）
２　**自己指導能力**（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を有する生徒（Self-guidance）
３　**ソーシャルスキル**（他者と良好な関係を形成・維持していくための知識・技能）と**ライフスキル**（社会生活・職業生活等に必要な基礎的・基本的な知識・技能）を身に付けた生徒（Social-skills and Life-skills）

（２）カリキュラム・ポリシー（「目指す学校像・生徒像」を実現するためにどのような目標・内容の授業を行うかを示す「目指す教育課程」）

１　「自立と社会参加」に必要な**「基礎的・基本的な学力」と「実践的・専門的な技能」**を身に付けることができる教育課程
２　「自立と社会参加」に必要な**「自尊感情」**を高めることができる教育課程
３　「自立と社会参加」に必要な**「ソーシャルスキル」と「ライフスキル」**を身に付けることができる教育課程

（３）アドミッション・ポリシー（入学時にどのような生徒を積極的に受け入れるかを示す「期待する入学者像」）

１	どの学校に進学するかを決め、その学校の入学試験に合格し入学するという課題に対し、人任せにせず自分で解決しようと決心した生徒
２	自らの課題・特性により「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも、屈することなく頑張って生きていこうと決心した生徒
３	「自分を変えたい、変わりたい」という思いで「学び直し」・「生き直し」をしようと決心した生徒

（４）スタッフ・ポリシー（職員にどのような姿勢・態度の体現を期待するかを示す「目指す職員像」）

１	多忙な同僚を助け、役割と役割の隙間にある誰の仕事でもない仕事を自分の仕事と思って動く**協働と利他の精神（Collaboration & Altruism）**を体現した職員
２	スクール・ミッションの実現に向けて主体的に職能成長を続ける**専門職（Profession）としての姿勢**を体現した職員
３	「優しさ」と「厳しさ」を併せ持ち、「個性」を生かしつつ「同僚性」を高め、「自由」を愛し「規律」を尊ぶ姿勢（Synthetic Competence）を調和的に体現した職員

（５）コース・マネジメント・ポリシー（どのような知識・技能を習得し、どのような人材育成に取り組むかを示す「目指すコース像」）

総合コース	社会生活・職業生活に求められる基本的な知識・技能を習得し、自信を持って自立と社会参加を果たす**“最強の常識人”**を育成するコース
ドッグケアコース	犬の訓練・美容に関する基本的な知識・技能を習得し、動物との共生と愛護精神の向上に貢献する**“ドッグマスター”**を育成するコース
パソコンコース	情報社会で活きる基本的な知識・技能を習得し、学習の個性化と指導の個別化の徹底を通じて**“とがったＩＴジェネラリスト”**を育成するコース
日本語コース	卒業に必要な「学ぶための日本語」と社会参加に必要な「生きるための日本語」を習得し、希望進路を実現する**“自立した日本語使用者”**を育成するコース

３　学校経営上の重点目標

本学園には、高等学校通信教育の形態、教育課程の実施方法、生徒の学校生活の送り方等に関して、他ではあまりみられない特色ある仕組みや取組が次のとおりたくさんあります。それらを本学園では**“徳風スタイル”**と表現しています。

	徳風スタイル
教育システム	❒高専併修による“ダブルスクール教育”　❒日本語コース設置　❒チーム担任制　❒５年一貫教育（注１）
学校生活	❒30 人学級　❒９時 30 分始業　❒スクールバス通学　❒生徒寮　❒「徳風総合支援プログラム」による支援（注２）
授業	❒45 分５限授業　❒公文教材を使用した３年間の学び直し学習　❒ “ライフスキル”と“ソーシャルスキル”の習得　❒５日間の定期試験 ❒徹底した補充授業（注３）　❒「自立支援型デュアルシステム」の実施（注４）　❒「三重徳風学園奨励金制度（エンカレッジ制度）」創設（注５）

（注１）ドッグケアコース・パソコンコースの生徒が徳風技能専門学校専門課程（２年間）のトリミング科・コンピュータ科に進学して知識・技能を向上させる仕組みのこと。

（注２）特別な支援を必要とする生徒について、保護者や医療・福祉・行政等の関係機関との連携協力体制の下、当該生徒の成長を適切に支援するための取組のこと。

（注３）学校に行きたくても行けない生徒など、やむを得ない理由で欠席を繰り返した生徒に対し、欠課時数の多い科目等の履修を可能な限り支援する仕組みのこと。

（注４）標準的な実施方法や一部の専門高校が実施している「日本版デュアルシステム」とは異なる、本校生徒の実態等に即した拡大版インターンシップのこと。

（注５）自らの課題・特性・環境を「バネ」にして前向きに生きていこうと頑張る生徒（例えば、アルバイトをして家計を助ける生徒、家事や家族の世話、介護等をしている生徒等）や学校指定の運動部に所属し勉学との両立に励む生徒等の支援を目的とする奨励金制度のこと。

当面、次の２点を学校経営上の重点目標に据え、“徳風スタイル”を更に進化させていきます。

重点目標１：“フレキシブルスクール”への更なる進化

○　本学園は令和２年度、徳風技能専門学校高等課程において、商業実務分野に属する「国際ビジネス科」に加え、**文化・教養分野に属する「総合科」**を新設して２分野２学科体制に拡充するとともに、“ダブルスクール教育”を可能にする徳風高等学校との連携制度について、令和２年度以降の入学生を対象に、年次進行で、これまでの**「技能連携」**（学校教育法第 55 条に基づき、都道府県教育委員会の指定する技能教育施設における学習を自校における職業教科の一部の履修とみなすことのできる制度）を取り止め、連携の裁量幅が格段に大きい**「高専併修」**（学校教育法施行規則第 98 条第１号に基づき、大学、高等専門学校又は専修学校等における学修を自校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与えることのできる制度）を新たに導入してきました。

○　この制度改革により設置可能となった**「日本語コース」**を第４のコースとして令和３年度に立ち上げ、**「本格的な日本語教育を受けながら高卒資格を取得できる県内唯一の学校」**として進化を図るなど、本学園は、**「社会の変化や地域の教育ニーズ等に応じて教育課程を柔軟に編成・実施する“フレキシブルスクール”」**として、更なる進化を続けていきます。

<table>
<tr><td rowspan="4">令和元年度
まで</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th rowspan="2">徳風高等学校（全日型コース）</th><th colspan="2">徳風技能専門学校高等課程</th><th rowspan="2">両校の連携制度</th></tr>
<tr><th>分野</th><th>学科</th></tr>
<tr><td>ドッグケアコース</td><td rowspan="3">商業実務分野</td><td rowspan="3">国際ビジネス科</td><td rowspan="3">技能連携</td></tr>
<tr><td>パソコンコース</td></tr>
<tr><td>総合コース</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td rowspan="5">令和２年度
から</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th rowspan="2">徳風高等学校（全日型コース）</th><th colspan="2">徳風技能専門学校高等課程</th><th rowspan="2">両校の連携制度</th></tr>
<tr><th>分野</th><th>学科</th></tr>
<tr><td>ドッグケアコース</td><td rowspan="2">商業実務分野</td><td rowspan="2">国際ビジネス科</td><td rowspan="4">高専併修</td></tr>
<tr><td>パソコンコース</td></tr>
<tr><td>総合コース</td><td rowspan="2">文化・教養分野</td><td rowspan="2">総合科
【令和２年度設置】</td></tr>
<tr><td>日本語コース【令和３年度設置】</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

重点目標２：“働き方”の更なる進化

○　本学園は令和２年７月に校長直属の特別委員会「働き方改革検討委員会」を設置し、同委員会での審議を経て、同年 10 月に**「働き方改革アクションプラン」**を策定しました。同プランでは、**「全教職員がワークライフバランスを適切に確保し、生き生きと働くことができる労働環境を整備することは、本学園の円滑な学校経営と教育活動の独自性・卓越性を持続していくための基盤である。」**との基本理念の下、単に労働時間・業務量の縮減や教職員定数の改善等を図ることだけに主眼を置くのではなく、**「全教職員が日々の生活の質と自らの指導力・人間力を高めながら、豊かで充実した職業人生を送り、円滑な学校経営と効果的な教育活動を行うことができるようにするための時間的・精神的な『ゆとり』を確保すること」**を目的にして、本学園独自の「働き方改革」に取り組むこととしています。

○　「働き方改革アクションプラン」に示した20本の改革プランは、内容別に「やめる」「減らす」「変える」「始める・つくる」の４つに仕分けしたうえで、実施時期別に「令和２年度中に実施」「令和３年度中に実施」「令和５年度末までに実施」「令和６年度以降に実施」の４つに区分し、各改革プランを計画的に実施することとしています。

○　令和４年８月には「働き方改革推進プロジェクト」を立ち上げ、それ以後の改革プランを改めて検討する中で、本学園教員の過重労働防止、多忙化解消、満足度向上及び健康経営促進を図る上で最も必要かつ重要と考えた**改革プラン 12「寮監業務の抜本的改革」**及び**改革プラン 16「１年単位の変形労働時間制の導入」**に特に注力することとしています。

	Ａ：令和２年度中に実施	Ｂ：令和３年度中に実施	Ｃ：令和５年度末までに実施	Ｄ：令和６年度以降に実施
やめる	■**改革プラン１**：教員の急な欠勤に伴う時間割変更の取り止めと自習授業の実施			
減らす	■**改革プラン２**：土日コースのスクーリング時数削減	■**改革プラン３**：広報活動の実施回数削減 ■**改革プラン４**：除草作業の実施回数削減		
変える	■**改革プラン５**：文書・チラシ等の折込作業等の機械化 ■**改革プラン６**：２学期三者懇談会の対象生徒の制限	■**改革プラン７**：オンライン授業（金曜４限）を含む時間割の編成・実施 ■**改革プラン８**：職員室の机配置の一部変更 ■**改革プラン９**：広報チラシ等作成業務の完全業者委託 ■**改革プラン 10**：教員間の交渉による時間割の一部変更 ■**改革プラン 11**：会議革命	■**改革プラン 12**：寮監業務の抜本的改革	■**改革プラン 13**：授業時間の一律標準化（１コマ 50 分で統一）
始める・つくる	■**改革プラン 14**：電話対応時間の設定と電話自動音声システムの導入 ■**改革プラン 15**：「学校閉業日」の導入			■**改革プラン 16**：１年単位の「変形労働時間制」の導入 ■**改革プラン 17**：Wi-Fi 環境の整備と「生徒一人一台タブレット」の導入 ■**改革プラン 18**：教育課程を基にした各教科の教員数と非常勤講師の時間数の算定 ■**改革プラン 19**：各種特別手当の支給 ■**改革プラン 20**：時間年休の導入

４　本年度の重点取組と自己評価

重点取組	取組内容・方法等	自己評価
１　“徳風スタイル”の更なる進化	（１）「自立支援型デュアルシステム」の実施 令和５年度以降の入学生を対象に、インターンシップの標準的な実施方法や一部の専門高校が実施する「デュアルシステム（実務・教育連結型人材育成システム）」とは異なる、本学園生徒の実態等に即した「自立支援型デュアルシステム(自称)」を新たに導入し、２年次での実施を開始します。	（年度末に記入。以下同じ。）
	（２）「徳風型授業研究」の計画的実施 授業力の向上と真の教育専門職としての職能成長を図るため、月１回水曜日を「レッスンスタディーデイ」と銘打ち、全教員が本校独自開発の授業評価シートを用いて特定の学級での研究授業を参観し、授業後は授業者と参観者が研究協議を行う「徳風型授業研究」を計画的に実施します。	
	（３）授業満足度調査の対象教科・科目の拡大 各共通教科・科目を対象に令和５年度に新たに実施した授業満足度調査の取組の成果を活かし、対象教科・科目を拡大して専門教科・科目の授業満足度調査を実施する。	
	（４）「徳風総合支援プログラム」の積極的展開 特別な支援を要する生徒に係る関係機関との連携協力体制の更なる充実と拡充を図るため、新たな連携先の確保と広報活動の強化を図ります。	
	（５）「自己申告型奨励金制度（エンカレッジ制度）」の本格運用 アルバイトをして家計を助ける生徒、家事や家族の介護等をしている生徒など、自らの環境・特性を「バネ」にして前向きに生きる生徒を経済的に支援する新たな奨励金制度を本格的に運用していきます。	
２　組織運営の改善	（１）副校長職の新設 教頭兼事務長職を廃止し、副校長兼事務長職を新設して法人経営部門における対応力を強化するとともに、若手教員を教頭職に登用して学校経営部門の対応力を強化します。	
	（２）「総務部」の新設 教務部と広報部を統合した**総務部**を新設して総務部・指導部・保健部の３部体制とし、総務部主任は教務主任、同部副主任は広報主任、指導部主任は進路指導主事、同部副主任は生徒指導主事を担うこととします。	
	（３）ミドルリーダーの育成 若手教員を積極的に学校経営の幹部職員に登用するとともに、ベテラン教員による支援体制の構築と「リーダーシップ・マネジメント研修」を通じてミドルリーダーの育成を図ります。	
３　「働き方改革アクションプラン」の完全実施	（１）１年単位の変形労働時間制の導入 総労働時間の縮減を図るため、１年間を平均して１週間当たりの労働時間が 40 時間を超えないことなどを条件として、業務の繁閑に応じて労働時間を配分する一年単位の変形労働時間制を導入します。	
	（２）寮監業務の抜本的改善 個人事業の開業を所轄税務署に届け出た個人事業主と契約を交わし、令和６年度から宿直寮監とともに「宿直代行員」として寮監業務に従事する新たな寮監体制を構築します。	

５　本年度の計画と自己評価

以下の各表において、「現状と課題」欄には当該項目に関する現在の状態と何に取り組む必要があるかについて分析した結果を、「目指す状態」欄には実現したい状態を、「実践内容」欄には目指す状態を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどのような状態になれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「次年度行動計画」欄には評価結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれ記入しています。

徳風高等学校全日型コース・徳風技能専門学校高等課程

（１）教育活動

ア　学習指導

現状と課題	学習指導に関する指導力向上のための組織的な取組が弱い。また、常勤教員が少なく、課業時間中は空き時間もほとんどない状況ではあるが、生徒の学力と教員の指導力を継続的に向上させていくための実施可能な仕組みと共通実践が必要である。		
目指す状態	知識・技能の習得を目指す授業と、知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている。		
実践内容	授業満足度調査の対象拡大（共通教科・科目を対象に昨年度新たに実施した授業満足度調査を専門教科・科目も対象に実施する。）	自己評価	（年度末に記入）
	授業研究の定期的実施（独自開発した授業評価シートを用いて全教員が研究授業を参観し、事後に研究協議を行う「レッスンスタディーデイ」を年８回実施する。）		
	高等学校通信教育の充実（「レポート実施計画」を策定し、全教科・科目で添削指導を計画的・系統的に実施する。）		
評価指標	生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒７割以上		
	職員満足度調査において「授業力が向上した」と回答した教員８割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

イ　生徒指導

現状と課題	生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、ＳＮＳを介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談の充実を継続する必要がある。		
目指す状態	全教員が生徒の自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのか、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を高める必要性について深く共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している。		
実践内容	職員全員が、見て見ぬふりをせず、適時・適切い声かけをしていく。	自己評価	（年度末に記入）
	常に何が正しく、何が間違っているかを正しく判断し、行動していく。		
	生徒が正しいこと、良いことをした時は機を逸せず褒め、職員間で共有する。		
	判断・行動の基準となる規範を生徒に適宜分かりやすく伝えていく。		
評価指標	問題行動による特別指導件数年間１５件以内		
	生徒満足度調査において「適切な生徒指導が行われている」と回答した生徒８割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

ウ　進路指導

現状と課題	進路選択が依存的で、自らの責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。１年次から段階的に進路意識を高めていくことができるよう、３年間の系統的な進路指導計画を策定し、全教員による共通理解・共通実践が必要である。		
目指す状態	生徒が、必要な情報を得たり教員・保護者等と適宜相談したりしながら、自分の進路について主体的に考え、行動し、自らの責任で進路を決定する力を身に付けている。		
実践内容	「自立支援型デュアルシステム」を実施する。	自己評価	（年度末に記入）
	企業見学、オープンキャンパス、進路ガイダンス等への積極的参加		
	キャリア教育指導計画の確定と全校体制による進路指導の展開		
	「ようこそ先輩」（社会で活躍する卒業生と在校生が進路について語る会）の実施		
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒９割以上		
	生徒満足度調査において「適切な進路指導が行われている」と回答した生徒８割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

エ　安全・健康指導

現状と課題	保健主事と養護教諭が常駐する「保健部」を令和４年度に設置したところである。今後は、生徒と学校の実態を踏まえ、健康指導に関する業務の適切な遂行方法について検討し、同部が健康教育のセンターとしての機能を発揮していく必要がある。		
目指す状態	生徒一人ひとりが心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、特別な支援を必要とする生徒に関する校内ケース会議などが適宜開かれ、当該生徒に関する必要な情報を全教員が共有し、適切な指導・対応が行われている。		
実践内容	健康診断の結果に応じた事後指導を確実・適切に行う。	自己評価	（年度末に記入）
	生徒相談機能の充実に向けた啓発を行う。		
	校内特別支援教育委員会を年５回程度実施する。		
	学年会に参加し、ケース検討会に繋げる。		
	「徳風総合支援プログラム」の積極的展開。		
評価指標	心身の健康状態が年度当初に比して改善された生徒多数		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

オ　特別活動

現状と課題	友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考え行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら楽しく学校生活が送れるよう、生徒の対人コミュニケーションスキルを更に向上させる必要がある。		
目指す状態	生徒が学校行事、生徒会活動等に積極的に取り組み、学校・学級への所属感と集団の一員として自己有用感を実感しながら楽しく学校生活を送っている。		
実践内容	「意見ボックス」を校内に設置し、生徒たちの学校への想い・意見を募る。	自己評価	（年度末に記入）
	生徒が主体的に計画・実施する体育祭・文化祭の開催。		
	ボランティア活動等への積極的参加。		
評価指標	生徒満足度調査において「学校行事や生徒会活動は有意義なものになっている」と回答した生徒８割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

カ　部活動

現状と課題	年間を通じて活動している部は少ないが、東海大会・全国大会に出場する生徒は少なくない。今後は、部活動の更なる活性化に向けた取組が必要である。		
目指す状態	多くの部が計画的・自主的に活動し、その成果が学校行事や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている。		
実践内容	生徒会主催の部長会議を学期ごとに開く。	自己評価	（年度末に記入）
	部員主体の新入部員勧誘活動の実施。		
	生徒会予算の有効活用。		
評価指標	生徒満足度調査において「部活動は活発に行われている」と回答した生徒６割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

キ　総合コース

現状と課題	生徒の満足度は高いが、慢性的に生徒数が少数であり、コースとしての方向性を明確にし、特色化・魅力化を図る必要がある。		
目指す状態	明確化された「目指すコース像」とコースとしての存在意義の共通理解の下、生徒が課題研究を中心とした学習活動に意欲的に取り組み、希望進路を実現して社会参加を果たしている。		
実践内容	入学者増につながる総合コースの方向性の明確化。	自己評価	（年度末に記入）
	「スポーツ講座」の特色化・魅力化を図る。		
	「基礎教養講座」の新設。		
評価指標	生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒９割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

ク　ドッグケアコース

現状と課題	生徒によって能力や目的意識の差が大きく、個々に対応した指導方法を随時検討し、実践する必要がある。また、高い目的意識を持って本校に入学した生徒に対しても、その期待に応え、希望進路を実現できるよう、プロスタッフの充実と更に高度で専門的な指導の充実を図る必要がある。		
目指す状態	全職員が「目指すコース像」について共通理解をしたうえで共通実践し、生徒が生き生きと学習活動に取り組み、希望する進路を実現している。		
実践内容	コース認知度向上を目指し、地域イベント等の情報収集を行い、校外活動に積極的に参加する。	自己評価	（年度末に記入）
	進路選択の幅を広げるため、積極的に事業所訪問を行い、インターンシップ先や企業見学先を増やす。		
	授業時間数確保のため、長期休業中における集中実習の時間数を増やす。		
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒９割以上		
	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒９割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

ケ　パソコンコース

現状と課題	生徒間で検定試験の合格状況に差があることから、全生徒に検定試験合格の目標設定が必要である。また、生徒の得意分野における能力を伸長させるため、自主的に学習できる環境を整える必要がある。		
目指す状態	全生徒が複数の検定試験を受験し、合格している。また、個別に設定された目標の実現に向け自主的に学習している。		
実践内容	ICT 機器(授業用端末及び周辺機器)の計画的配備	自	（年度末に記入）

	日本情報処理検定協会をはじめ各種検定の実施及び検定対策	己評価	
	プログラミング、作品制作を通じた発表の機会の創出と広報活動での活用		
評価指標	日本情報処理検定３級以上の取得生徒８割以上		
	生徒満足度調査における「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒８割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

コ　日本語コース

現状と課題	令和３年度に設置したところであり、他コースとは異なる種々の課題を解決し、その成果を校内で共有しながらコース経営の活性化を図っていく必要がある。		
目指す状態	進学希望の生徒は日本語能力試験（ＪＬＰＴ）の「Ｎ２」、就職希望の生徒は「Ｎ３」にそれぞれ合格し、希望進路を実現している。また、日本語指導を必要とする外国籍生徒等に対する後期中等教育の在り方について、本コースがその教育モデルとして広く認知されている。		
実践内容	２年生対象のインターンシップの継続実施	自己評価	（年度末に記入）
	卒業生による進路講話の新規実施		
	企業見学やオープンキャンパスへの積極的参加		
	地域のイベント等への積極的参加		
評価指標	日本語コース全員の進級・卒業		
	３年生全員の希望進路実現		
	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒９割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

（２）学校運営等

ア　教育環境の整備

現状と課題	防火対策に係る工事を進めるとともに、設備更新や改修・修繕を要する箇所を洗い出し、計画的に対策を講じていく必要がある。		
目指す状態	修繕・工事等を計画的に行い、生徒・職員が安心して学校生活を送れる教育環境が整備されている。		
実践内容	優先順位を付けた修繕・工事の計画的実施（防火対策に係る工事を含む。）	自己評価	（年度末に記入）
	ICT に関わる教育備品等の導入及び新備品（机・椅子）と旧備品の一部入れ替え。		
	新教室へのエアコン設置、体育館の緞帳修繕、体育館への校歌パネル設置。		
	安全点検の結果に基づく必要な修繕の早期実施。		
評価指標	計画した工事の８割以上実施		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

イ　広報・生徒募集

現状と課題	教育活動の特色化・魅力化に向けた経営努力が入学者増に繋がらない状況が続いており、特に伊賀地区、松阪地区及び滋賀県からの入学者が減少傾向にある。今後、「徳風スタイル」による学校経営が県内外の中学校・中学生に一層周知され、入学者増に繋がる広報の在り方を追求する必要がある。		
目指す状態	「総務部」が主導する広報・生徒募集活動が功を奏し、毎年度、募集定員を概ね充足する入学者数の確保を維持している。		
実践内容	「中学校訪問」を更に効果的・効率的に実施できるよう訪問の時期・対象・持参物等の抜本的見直し（印刷物のデザイン等の見直し含む）	自己	（年度末に記入）

	広報ツールとしてのホームページの活性化のための活用方針の作成及び研修の実施	評価	
	ホームページ、ＳＮＳを積極的に活用した広報活動の実施		
評　価　指　標	次年度入学者１割増		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

ウ　組織運営

現状と課題	主任会に替わる少数精鋭の「学校経営委員会」の設置、生徒指導と進路指導の機能を併せ持つ「指導部」の設置、教務部と広報部を統合した「総務部」の設置等、組織運営の効率化・活性化を図るための組織改編を繰り返してきたが、今後は、これらの組織改革の成果を検証しつつ、令和２年度に策定した「働き方改革アクションプラン」を計画的且つ確実に実施していく必要がある。		
目指す状態	職員一人一人が「報告・連絡・相談・確認」を繰り返しながら職務を遂行し、「誰の仕事でもない仕事は自分の仕事」、「他者のために尽くすことが自分の仕事」などと考え行動する「協働」の姿勢と「利他」の精神を体現した職員が多い。		
実践内容	管理職会議を機動的に行い、情報共有を図る。	自己評価	（年度末に記入）
	教頭と各部主任（分掌・コース・学年）による情報共有のための「主任会」（月１回）を新たに設置し、必要に応じて学校としての意思決定も可とする権限移譲を行う。		
	ミドルリーダー・新任教員との教頭面談を月１回実施し、コンサルテーションを行う。		
	各部が作成する年間指導計画を新たにホームページで公表する。		
	リーダーシップ・マネジメント研修を年２回実施する。		
	水曜日を「ノー残業Day」とし、全員18時退勤を目指す運動を展開する。		
評　価　指　標	職員満足度調査で「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答した職員８割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

エ　学校満足度

現状と課題	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を引き続き実施し、その結果を学校運営改善に役立てる取組を定着させる必要がある。		
目指す状態	生徒・保護者・職員の学校満足度の高い状態が続いている。		
実践内容	生徒会からの要望１つ以上実現	自己評価	（年度末に記入）
	職員相互の組織貢献的振る舞いを称え合う「美点凝視の会」を定期開催する。		
	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を継続実施。		
評　価　指　標	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」旨回答した生徒・保護者・職員各８割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

徳風高等学校土日コース・平日サポートコース

現状と課題	両コースには、入学試験を受けて新規入学した生徒だけでなく、全日型コースから転籍した生徒、他校から転・編入学した生徒も在籍するなど、多様な生徒が在籍していることから、個に応じた学習指導等きめ細かな指導の充実を図る必要がある。		
目指す状態	生徒一人ひとりが学業と就労等の両立を図りながら、単位修得・進級・卒業を果たしている。		
実践内容	生徒対象の満足度調査を実施し、その結果を改善の基礎資料とする。	自己	（年度末に記入）
	各教科・科目等の添削指導に係る課題レポートへの記載内容の改善に努める。		

	全日型コースを有するからこそ可能な施設・設備の共用と教員の指導・対応により、生徒の学校満足度を高める。	評価	
評　価　指　標	生徒対象の満足度調査で「本校に概ね満足している」旨回答した生徒７割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

徳風高等学校技能連携校コース

現状と課題	技能連携校２校（鴻池学園高等専修学校及び大阪技能専門学校。以下「当該２校」という。）は高等学校通信教育規程に基づく通信教育連携協力施設であり、当該２校と良好な連携協力体制を築きながら、適正かつ効果的に通信教育を実施する必要がある。		
目指す状態	当該２校の生徒一人ひとりが専門的な知識・技能を習得しながら、本校での単位修得・進級・卒業を果たしている。		
実践内容	高等学校通信教育規程第１４条第１項の規定に基づく情報公開を引き続き行う。	自己評価	（年度末に記入）
	各教科・科目等における添削指導に係る課題レポートへの記載内容の改善に努める。		
	連携協力会議を引き続き年１回以上実施する。		
評価指標	生徒対象の満足度調査で「本校に概ね満足している」旨回答した生徒７割以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

徳風技能専門学校専門課程

現状と課題	徳風高等学校の卒業者に限ることとしてきた受入方針を令和３年度入試から改め、三重県立高等学校の卒業者も入学定員の５割を上限に受け入れることとしているが、入学者は極めて少ない状況にある。少人数教育の利点を活かしつつ、学生募集にも一層注力する必要がある。		
目指す状態	入学定員を充足する入学者数があり、専門学校としての経営の安定化が図られている。		
実践内容	教務内規を抜本的に見直す。	自己評価	（年度末に記入）
	コンピュータ科のカリキュラムを見直し、持続可能化・魅力化を図る。		
	学習環境の整備（ＰＣの更新、不要なロッカーの撤去、靴箱の買換え等）。		
	各学科に応じた各種検定試験等の対策強化。		
	全科目対象授業満足度調査及び学校満足度調査を各学期末に実施する。		
評価指標	年度末の学校満足度調査で「概ね満足」と回答した学生７割以上		
	令和７年度新入学生６人以上		
次年度行動計画	（年度末に記入）		

６　本年度の学校関係者評価

（年度末に記入）

７　次年度に向けた主な行動計画

（年度末に記入）